

## 発達障害

何らかの要因による生まれつきの中枢神経系の障害のため、認知やコミュニケーション、社会性、学習、注意力等の偏りを生じ、日常生活や社会生活に支障をきたすものです。

ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）、SLD（限局性学習症）等がありますが、これらの障害は同じ診断名の障害であったとしても、個人差が大きく、また複数の発達障害が重複することもあります。さらにこれらの特性と環境との相互作用の中で二次障害として精神障害を併発することも多く、障害のあり方や支援、必要とされる配慮はそれぞれ異なります。

主な困難	支援例
履修計画が立てられない	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修登録の支援</li> </ul>
聴覚過敏があり、周囲の雑音が気になって授業に集中できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>耳栓やノイズキャンセリングイヤホンの使用許可</li> </ul>
視覚過敏があり、まぶしさで授業に集中できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>サングラスの使用許可</li> </ul>
話を聞きながらノートを取るなど、マルチタスクが困難である	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の録音や板書撮影の許可</li> <li>配布資料の事前提供</li> </ul>
スケジュール管理が困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員と一緒にスケジュールを確認する。</li> <li>課題の提示は早めにし、メール等で個別に残る形で行う</li> <li>課題の提出期限の延長を認める</li> </ul>
実験の手順を理解できない	<ul style="list-style-type: none"> <li>詳しい手順を示した手順書を作成する</li> <li>ティーチングアシスタントを配置し、学生をサポートする</li> </ul>
卒論などのテーマを決められない	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員による綿密な面談により、本人に合わせた研究テーマを検討する</li> </ul>